

《下水道事業におけるエネルギー基本計画

「スマートプラン2014」の策定》

下水道局では、首都東京の都民生活や都市活動を地下で支える下水道の機能を安定的かつ永続的に発展させ、お客さまへの下水道サービスの充実強化を図るため、下水道事業初のエネルギー基本計画「スマートプラン2014」を策定しました。このプランに基づき、再生可能エネルギー活用の拡大、省エネルギーの更なる推進等を図っていきます。



森ヶ崎水再生センターへの施設の上部空間を利用した
太陽光発電導入イメージ

《下水道技術実習センターが完成》

人材育成と技術継承を推進するため、国内初となる下水道技術専門の大規模な実習施設である「下水道技術実習センター」を設置しました。

様々な分野の実習施設を活用し、自ら体験するプロセスを通じて当局職員の知識・技術の継承を効果的に推進するとともに、民間事業者等の方々にもご利用いただくことで、下水道界全体の人材育成と技術の継承を積極的に推進・支援していきます。



入孔する時の安全対策などを習得する
「人孔モデル」



管路内における水中歩行の困難性・危険性を
体験できる「管路内水中歩行モデル」

《北多摩一号・南多摩水再生センター間連絡管が完成》

震災時のバックアップ機能の確保と、施設の更新や維持管理の効率化を目的とした約3.3kmの連絡管が北多摩一号水再生センターと南多摩水再生センターの間に完成しました。お客さまに下水道や環境への理解を深めていただくため、実際に連絡管に入り施設規模を体感していただくことのできる「見える化施設」も整備しています。



汚水管（薄緑色）や汚泥管（オレンジ色）が配置された連絡管内部



連絡管の入口に設置された実物大模型

《東尾久浄化センター西日暮里系ポンプ室が完成》

荒川区の浸水被害の軽減を目的とした、「東尾久浄化センター西日暮里系ポンプ室」が完成しました。さらに、尾久上幹線流入渠には下水道施設のスケールを実感しながら、お客さまに下水道や環境への理解を深めていただく「見える化施設」も併設しています。

また、当局では豪雨による浸水被害の軽減を目指して、昨年「豪雨対策下水道緊急プラン」を策定し、新たな幹線の整備、既存の貯留施設の活用、バイパス管の整備等を推進しています。



西日暮里系ポンプ室の雨水ポンプ設備



見学者室から眺めることのできる
尾久上幹線流入渠